

待ち望まれた湖西線

開通祝賀の催し

国鉄(現JR)湖西線は、着工から7年後の昭和49年(1974)7月20日に全線が開通し、近江今津駅で開通式が行われました。9時40分、小旗を持った今津町内の小学生約500人と小学校鼓笛隊、



建設中の湖西線(今津町住吉付近)

中学校プラスバンドが並びプラットフォームで開通式が始まり、関係者によるテープカットが続いてくす玉が割られました。そしていよいよ9時48分、ファンファーレとろしの号砲を合図に、最初の南行ききの電車が発進しました。この会場で式辞をのべた早田昌二今津町長は、翌月発行の「町報いま津」で、「夢にまで見た国鉄湖西線が誕生しました。開通式には、万感胸に迫って、祝福をする言葉に戸惑うほど感激しました。」とその喜びを表しました。

この日は、開通式の後も今津町内で終日盛大な祝賀行事が続きました。町内小学校鼓笛隊に加え、京都女子高校バトン部、淀川高校吹奏楽部、大谷高校吹奏楽部などの関西吹奏楽団約350人が駅前での演奏の後、町内をパレードし、夜には今津東小学校で演奏会が行われました。

また、前日の19日には前夜祭が行われました。会場は雨天のため予定されていた駅前広場から今津

東小学校講堂になりましたが、湖西線沿線各地の「ふるさとの踊り」と「高島音頭総踊り」が披露され、そのようすはびわ湖放送が収録するとという注目ぶりでした。

湖西線の建設工事

国鉄湖西線建設の計画が具体化したのは昭和30年(1955)頃のことでした。北陸から湖西地方を通って東海道線へつなぐバイパス路線の建設を検討していた国鉄の事情と地元の熱意によって、昭和39年6月に湖西線は工事線に決定し、沿線の状況調査が始まりました。当時、湖西の地には浜大津と近江今津を結ぶ江若鉄道が走っていました。交渉の結果、江若線路の多くを国鉄が買い上げ、湖西線の用地として利用することになりました。

しかし昭和42年1月に起工式が行われ、建設工事が実際に進みだすと、用地買収問題の他、湧水の多い軟弱地形での隧道建設、大規模な橋梁建設など数々の課題が持ち上がり、難しい工事が続けられることとなりました。

開業後の賑わい

開通直後の沿線の賑わいは、たびたび新聞でも取り上げられるほどでした。7月24日の朝日新聞によると、20日から23日の近江今津駅で売れた切符は3万枚にのぼり、応援を含めた30人の駅員が業務にあたりました。また安曇川駅と近江高島駅は釣り客や水泳客らで賑わい、3日間で5千人近い人が駅を利用しました。さらにマキノ・今津地域の民宿は満員札止めで、各町の役場には宿泊場所の問い合わせが殺到している、との記事が掲載されています。

文化財課 ☎(25)85599

編集雑感

今回の7月号は湖西線が開通50周年を迎えるということで、表紙や特集ページをはじめ、湖西線ネタが至るところで登場します。私たちの生活を支える公共交通機関として、活躍してきた湖西線を今後も守り続けるために、この夏は湖西線に乗ってさまざまな場所にお出かけするのも良いかもしれませんね。そして、7月20日にはたくさんのイベントが開催予定なのでぜひ楽しんでください!(K)



広報たかしま

令和6年

7

月号

No.294

発行▼高島市

編集▼

政策部企画広報課

〒160-8501

滋賀県高島市新旭町北畑5の10番地

☎0740(25)8000(代)

https://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp